

親子で楽しもう♪

多古町キッズ英会話教室 7月18日(土)

町コミュニティプラザで「多古町キッズ英会話教室」が開催され、当日は、多古こども園に通う3歳から5歳児とその保護者16組が参加しました。

今回は、「Under the Sea Adventure!(海を探検しよう!)」をテーマに、海の生き物になりきって体を動かしたり、ブルーシートとスズランテープで表現した海の中を親子でくぐり抜け、魚や宝箱のステッカーを集める「海の探検」を楽しんだりするなど、さまざまなレクリエーションを通して、子どもたちは遊びながら英語に親しみました。

また、はさみやのりを使った工作も行われ、紙皿を土台に海藻や魚、サンゴ礁などのパーツを貼り付け、それぞれが思い思いの海の世界を表現しました。会場では、親子で協力しながら作品づくりに取り組む姿や、笑顔いっぱいレクリエーションや工作を楽しむ子どもたちの姿がたくさん見られ、終始にぎやかで温かな雰囲気包まれていました。



▲講師のホップス先生(写真左)と松本先生(写真右)



▲みんなで海の生き物になりきって英語を学びました！



▲波にさらわれないよう海に潜って、魚をゲット！



▲はさみやのりを使って親子で協力して工作をしました！

迅速かつ確実に

第31回全国消防操法大会千葉県代表選考会 7月25日(土)

千葉県消防学校で第31回全国消防操法大会千葉県代表選考会が開催され、12支部の代表消防団が参加し、多古町消防団は香取支部代表として選考会に臨みました。

ポンプ車操法では指揮者、1番員から4番員、補助員の6人で、火点(標的)に向けて、迅速かつ確実にホース延長から放水までを行い、その得点を競いました。

結果は惜しくも入賞できませんでしたが、支部の代表として臨んだ経験は、今後の大きな糧となることでしょう。

指揮者を務めた鈴木正人さんにお話を伺いました



今回は最後の順番で演技を行いました。各支部の代表者が見守る中でも緊張することなく、練習の成果を十分に発揮できたと思います。この選考会では他支部の演技も見学できたので、単に「上手だな」と感心するだけでなく、学べることがしっかり吸収していきたいと思います。



▲のばす、つなぐ、放水する。すべての動作を迅速かつ確実に行う多古町消防団の皆さん



受け継がれし いかがご舞

受け継がれし



祭りの華

好きだから
続けられた

しいかが舞の猿の演者は、高校1年生の時から始めて約60年間続けてきました。きっかけは、祭りの準備を手伝っていた際に、町内の年上の方から声をかけられたことです。

昔は大人が演じるのが慣例でしたが、子どもの頃から祭りが好きで、丸柱に上った経験もあったことから引き受けました。当時は周囲から危険だと心配の声もありましたが、「自分ならやれる」という自信があり、また、祭りの華を務めることができるチャンスだと思い、続けてきました。年齢を重ねるにつれて、観客からの拍手や記念撮影などの声をかけられることも増えましたね。

多古祇園祭の見どころの一つであり、千葉県指定無形民俗文化財にも指定されている「しいかがご舞」。ツグメと呼ばれる高さ約10メートルの丸柱の上で猿の演者が曲芸を披露し、幸運が授かるといわれる扇を観客に落とします。今年、猿の演者として最後の舞台を迎えた秋葉忠さんに、しいかがご舞への思いを伺いました。

やりがい
喜んでくれること

今回は、甥っ子たちがお揃いのダボシャツを着て応援に来てくれました。「今年で最後にする」と身内に伝えたときは、これまで心配してきていたこともあり、「良かった」と安堵の声が上がりましたね。中でも甥っ子たちがサプライズで胴上げしてくれたことは、すごくありがたかったです。

猿の演者を引き継いだ当初は、上に登って扇を落とすことが主な役目だったこともあり、曲芸の種類がそれほど多くありませんでした。そこで「お客さんに喜んでもらいたい」という思いから、自分でいろいろな技を考え、披露してきました。観客から拍手や歓声が湧き上がるたびに、皆さんからのアンコールだと捉えて、期待に応えたいと演技を延長することもありました。周りの人には、ここまでやらせてもらえたことに感謝しています。



▲演技を終えた後、親族の皆さんに胴上げされる秋葉さん

しいかがご舞に
かける
思い

一番の目的は、しいかが舞を通して「こんな珍しいものがある」「見に来る価値がある」と話題を作り、多古町をPRしながら祭りを盛り上げることです。そして最後は、自分の好きなことで皆さんに喜んでもらうことで終わりにしたいという強い気持ちがありましたね。

後継者に伝えたいことは、命が関わる役であるため、必ず親族の許可を得てから舞台に立つてほしいということです。今後は「多古町八坂神社しいかがご舞保存会」を中心に、皆さんで伝統あるしいかがご舞を守り続け、多古町の魅力がもっと多くの人に広がっていくことを願っています。

秋葉 忠さん(76歳)